



令和4年10月12日

校長室から

No. 5

今回は「ふわふわ言葉」について紹介します。

9月は、学校全体で「ふわふわ言葉」について考え、取り組みました。本校では、毎年この時期に「ふわふわ言葉月間」として、自分たちの言葉遣いについて見直しています。

今年は、各クラスで見直したことを、オンライン放送で全校に紹介しました。クラスごとの工夫があってとてもよかったです。

1 子供たちの言葉遣いで気になること

子供たちの会話を聞いていると、時々、かなり聞きたくない言葉が発せられています。

「しね」「きえろ」「うざい」「はぁー」「だから」「あっち行って」「いないから」「こいつが」「この人が」「あんた」

これらの言葉は、どこで覚えてしまうのでしょうか？

年上の「きょうだい」の使っている言葉であったり、アニメの中で使われていたり、対戦ゲームの相手から投げかけられたりする言葉のようです。保護者の皆さんの中にもこのような言葉をつい使ってしまう方もいるのかもしれませんが。

これらの言葉は、皆 相手を否定する言葉です。

しかし、子供たちの状況を見ていると「自分を否定されたくない」「これ以上自分に踏み込んで欲しくない」と言うときに使っているように感じます。つまり、相手に追い込まれていて、もうこれ以上かかわってほしくない、否定して欲しくないといった場面で使われていることもあるということです。つまり、弱い立場や困った状況に置かれている人が使っているように感じるのです。ただ、語気が強いのでこの言葉を使う人が強いような印象を与えますし、言われた側は強く否定されている感じを受けます。相手がおとなしくなる様子を見て、安心しているのかもしれませんが。また、それにつけ込んで自分が優位に立ったような感覚（錯覚）を得ている場合もあるのかもしれませんが。

また、このような見方もできます。それは、「言葉を知らない」と言うことです。自分の気持ちをしっかり伝えたいのに、自分の気持ちを正しい言葉で伝えられないため、相手に分かってもらえず、面倒くさいのでこれらの否定的な言葉で、会話を終わらせ、仕方なく関係を絶つことにしているのかもしれませんが。

2 言葉で伝える大切さ

人間は、言葉を介してお互いを理解し、協力して行動する生き物だと思います。もちろん、表情や行動からも相手の気持ちを察することは大切です。人間が生きていくには、「かかわり合う」ということが前提になります。しかし、今の社会は、極端に決まりの厳しいところがあるため、子供たちには「失敗してはいけない」という気持ちが強くなり、自分の気持ちを隠そうとする風潮にあるのではないのでしょうか。その結果、人とのかかわりを避けるような選択をしているようにも感じます。スマートフォンでゲームをしたり、音楽

を聴いたり、アニメを見たりするのは、自分の世界に入り込むための方法ないのかもしれませんが。これらの方法で**人とのかかわりを絶ち、安心を作り出しているとしたら、大変残念なことです**。その反面、自分の名前を伏せて発信できる SNS では、自分の鬱憤を晴らすように、思ったことを好き勝手に発信します。時には、その言葉は取り上げられて、「炎上」していることもあります。そして益々自信をなくし、**人とかかわろうとする場を奪われているのだとしたら、とても深刻な問題です**。

お互いを完全に理解し合うことはできません。しかし、お互いの想いや考えを伝え合い、違いを見付け話し合ったり、同じ考えに共感したりしながらさらに話し合い、新しいことを生み出し、共感や協力する力が生み出され、**互いを大切にしようという心が育まれていくのだと考えます**。そして、そのことがよりよい社会を形成していくのではないのでしょうか。その意味で、**お互いの想いや考えを伝え合うことは、とても大切です。正しく伝えられる言葉を身に付け、伝え合える場を増やし、伝え合える雰囲気をつくることはとても重要なことです**。

3 ふわふわ言葉月間に取り組む意味

取組としては、「ふわふわ言葉」使って気持ちのよい言葉、聞いていていやな感じを受けない言葉を探していきます。逆に、**聞いていていやな感じを受ける言葉である「チクチク言葉」にも目を向け、どのような言葉がよくないのかも改めて確認することが**できます。

低学年では、「ふわふわ言葉」をカードに書いて、木の枝に貼り「ふわふわ言葉の木」にまとめるクラスもありました。中学年では、「**いやな言葉を言い換える**」ことに取り組んだクラスもありました。高学年では、「なぜ、ふわふわ言葉を使うといいか」をまとめたクラスもありました。その中には「**クラスの雰囲気が明るくなった**」「**相手を思いやると言うことにつながると感じた**」という感想がありました。

9月で取組は終わりますが、この後も引き続き「ふわふわ言葉」を意識することが大切です。なぜなら、**クラスの雰囲気が明るくなり、友達と意見を交わし合いたい雰囲気ができるからです**。話し合っ解決したり、理解を深めたりする活動を通して、お互いを認め合い高め合う雰囲気ができてきます。「**チクチク言葉**」が聞こえ始めたら、それは、**子供たちの SOS なのかもしれません**。自分の気持ちが分かってもらえない、上手く伝わらない、関係をもつのが「しんどい」という合図だと感じて、積極的に声をかけていける思いやりのある子供たちを育てていきたいと思えます。